

## 英国での産婦人科医療



最近では、「女性に優しいクリニック」が注目され、女性特有の病気や妊娠に際し、多くの女性がレディースクリニックをご利用になります。今回は、よくあるご質問をQ&Aでお答えします。

Q

婦人科系の不調があっても、診察を受けるのをついたらめらってしまいがちです。相談程度で病院にいてもよいものなのでしょうか？

A

症状の経過や日常生活に与える影響などを時間をかけて詳しくお話するだけでも、ある程度の病気の予想や対処法への糸口をつかむことが可能となります。婦人科系の症状となると、診察に際しての不安や羞恥心は誰もがお持ちではないかと思しますので、診察や検査の必要性を判断するためのご相談だけでも医療機関をご利用になる価値があると思います。

Q

イギリス人の多くが生理不順などにもいいとピルを服用しており驚きました。私たちと比べると体格も違うので英国のピルを服用しても大丈夫か少し不安です。

A

ピルに関しては多くのご相談を頂きます。私どもの施設でも、月経不順、避妊、月経痛などに対し低用量ピルを処方させて頂く機会がございます。日英で特に内容に差のない製剤がありますので安心してお使いいただけます。但し、服用に際しては、服用にふさわしい状況か、持病はお持ちでないかを、専門医へご相談頂くのが望ましいでしょう。さらに服用後の副作用はみとめられないか等の評価をお受けになることをお勧め致します。

Q

イギリスにおける妊娠と出産の現状を教えてくださいませんか？

A

英国の場合、原則的に助産師(Midwife)が妊婦検診を行います。超音波検査は妊娠12週および20週の2回、超音波技師が担当します。これ以外の時期は胎児の発育状態、逆子かどうか、胎盤の状態などは、はっきりとはわからないのが実情です。日本と同様の妊婦健診を希望される場合は、日系医療機関や現地プライベート病院で専門医に相談する必要があります。英国でも、多くの在英邦人の皆さんが出産を経験され、子育てを楽しんでいらっしゃいます。さまざまな面でのきめ細やかな出産前後のケアをお望みであれば、プライベート病院での出産をご検討いただいてもよろしいでしょう。妊娠、出産は、女性にとってはもちろんのこと、家庭にとっても一大イベントです。そこに関わる誰もが幸せを感じるイベント期間でありますように、私たちも応援いたします。